

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○泉唯史 青木光広 山口明彦 鈴木英樹 吉田晋 小島悟 高橋尚明 武田涼子 宮崎充功 佐々木祐二
 澤田篤史 長谷川純子 井上恒志郎 大須田祐亮 中村宅雄 大内みふか 山根裕司 佐藤一成 鈴木伸弥
 岩部達也 多田菊代

【概 要】

全学教育科目、専門基礎科目および専門科目において学んだ知識を基盤としながら、少人数のゼミ形式を基本とした指導体制のもと、文献検索方法の学習や論文抄読を通じて、理学療法学分野における新たな研究課題を探索する。

【学習目標】

理学療法分野における科学的基盤を構築していくため、文献検索や論文抄読を通して新たな研究課題を探索することができる。

1. 研究に必要な情報収集ができる。
2. 様々な研究手法について理解し説明することができる。
3. 研究計画の立案ができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 (30	研究課題の探索	各ゼミ担当教員の指導のもと、理学療法分野や隣接領域における研究レビューや実験的検証を行いながら、研究課題を探索する。	担当教員全員

【評価方法】

課題レポート 60%

ゼミでのプレゼンテーション内容 40%

【備 考】

教科書 : 特に指定しない。

参考書 : 特に指定しない。

【学習の準備】

各ゼミの担当教員の指示に従い研究セミナーのテーマについての準備および課題の整理をしておくこと。予習（セミナーの準備）についてはおおむね80分、復習（課題の整理など）についてはおおむね80分、計160分の予習・復習の時間が必要です。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに理学療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。